

[宇宙飛行士 山崎直子さん 講演：“宇宙、人、夢をつなぐ”]
(高松市立亀阜小学校・紫雲中学校 1150名の生徒が参加)

日航財団では、地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的にした「地球人講座」を、2003年度より国内外各地で開催してきました。

第18回となる今回は、地球という視点を超え、宇宙という視点から、宇宙飛行士の話を将来の地球を担う子供たちに聞かせたいと考え、山崎直子さんを招いて、日本航空高松支店の協力のもと、「地球人講座 in 高松」を開催しました。

今回は、宇宙飛行士として2010年4月スペースシャトル ディスカバリー号に搭乗し、国際宇宙ステーションでの任務を遂行された山崎直子さんに「宇宙、人、夢をつなぐ」と題して、宇宙飛行士になるまでのご自身の体験や宇宙での経験を高松の小中学生に語っていただきました。



会場には、宇宙飛行士を将来の夢に描いている子供も含め、小学1年から中学2年まで、約1150名の子供もたちが参加しました。

山崎さんは、夢に向かって努力することは決して無駄にならない、ゴールを目指して地道に努力すること、挑戦しつづけることの大切さ、そして海外では日本や日本の文化について聞かれることがたくさんあるので、日本のことを学ぶことの重要性も語ってくださいました。

最後の質問コーナーでは、「宇宙で美味しかったものは？」「1番大変な訓練は？」「宇宙から太陽や星を見たとき、どう思いましたか？」「宇宙で何が楽しかったですか？」「挫折しそうになったことはありますか？どうやって乗り越えましたか？」他たくさんの質問に対して、ひとつひとつ丁寧に回答してくださいました。

また、航空の発達によって世界の時間距離が短縮され、日航財団のいう「航空文明社会」がもたらされたが、これからは多くの人々が宇宙に行くようになる時代が到来し、そこには新しい文明社会「宇宙文明社会」が生まれてくるだろうと、子供たちの想像をかき立てるような話しぶりも印象的でした。

多くの子供たちの心に深く残り、将来の道を探る、また、自分を成長させる気づきになる貴重な講演会となりました。



『出典:JAXA/NASA』



1970年千葉県生まれ。宇宙飛行士として2010年4月スペースシャトル ディスカバリー号に搭乗し、国際宇宙ステーションでの任務を遂行。2週間のこのミッションでは、機材を国際宇宙ステーションに取り付けるロボットアームの操作と移送物資の管理や作業の指揮を執る物資移送責任者を務めた。(2013年1月現在)